

2019年3月28日
損害保険ジャパン日本興亜株式会社

飛島村と『自動運転技術を活用したモビリティサービスの実用化に向けた連携協定』 の締結について

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（取締役社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン日本興亜」）は、愛知県海部郡飛島村（村長：久野 時男）、国立大学法人名古屋大学（総長：松尾 清一）、株式会社ティアフォー（代表取締役社長：武田 一哉）、アイサンテクノロジー株式会社（代表取締役社長 加藤淳）との5者間による『自動運転技術を活用したモビリティサービスの実用化に向けた連携協定』（以下「本協定」）を、2019年3月24日に締結したことをお知らせします。

1. 協定の背景・目的

飛島村は村内に鉄道の駅がなく、お年寄りにはバスや乗り合いタクシーに頼らざるを得ないため、移動手段の利便性向上が課題となっています。

本協定は、5者が密接に連携することにより、飛島村内で自動運転技術を活用したモビリティサービスの事業化を通じて、地域交通の利便性向上を図ることを目的としています。

地域における公共交通の課題解決を支援し、住民の利便性向上を通じた地域の振興を目指していきます。

2. 協定の主な内容

本協定の目的達成のために、5者が協力を行う内容は以下のとおりです。

- (1) 自動運転技術の開発に関すること
- (2) 自動運転車を活用したモビリティサービスを事業化するための環境整備に関すること
- (3) その他、本協定の目的を達成するために必要な取組みに関すること

3. 今後について

本協定に基づき、飛島村内における自動走行実証実験の計画を進めていきます。

損保ジャパン日本興亜は、「安心・安全な自動運転社会」の実現に向けて、より一層の産官学連携を進めるとともに、損害保険会社が担う役割の研究をさらに加速させ、新たな価値の創出を目指して取り組んでいきます。

以上

【連携協定締結式の様子】

